2021 年度　遺愛女子高等学校遺愛女子中学校
学校評価　第三者評価報告書

今回の評価（第三者評価）は、コアネット教育総合研究所　川畑浩之氏に評価委員を委嘱して実施した。以下、そのレポートを掲載する。

2021 年の学校評価は、以下の資料と 10 月 23 日の高校受験を対象とした「募集イベント」への参加、また 22 日・23 日に教職員へのヒアリングを行いました。また、今年度は管理職へのヒアリングを数回オンラインで行い、下記のレポートをまとめました。

〔調査資料〕
- 函館地区私立高等学校入学数
- 函館私立 8 校入学数推移
- 渡島第 1 学区中卒数
- 令和 3 年度私立高等学校入学数推移（2009～2021 年）
- 2020 年度　学校評価
- 全国学力テスト　2016 から 2021 年
- 進研模試の結果　2021 年度　7 月記述
- 高校 3 年卒業間際アンケート　2021 年 3 月
- 教職員自己評価アンケート　2020 年度
- 学校満足度結果推移（2016～2018）
- 学校案内　高校　2021 年入学案内
- 学校案内　中学校　2021 年入学案内
- 入試要項　高校　2021 年
- 入試要項　中学校　2021 年
- 進路資料　2021 年度
- 2021 年遺愛中学校ミニ見学会資料（2021.6.19～7.10 実施）
- 2021 年遺愛中学入試対策会Ⅰ配布資料（2021.6.26 実施）
- 2021 年遺愛中学入試対策会Ⅱ配布資料（2021.7.31 実施）

１．総合的な評価

（１）評価

これまでと同様、進路実績や入学者の推移やヒアリングや各種アンケートなどから地域に支持される教育を実践する学校であると評価する。

本校は確かな進路を獲得することが生徒募集に繋がると考えている。学校の評価す

なわち、生徒が本校を選ぶ理由は、「進学実績」「志望する進路の実現」が大きな点であるとしている。そのため、3 年、6 年間の教育活動の充実を図り、その実践を支える教職員の教科指導力を発揮する取り組みを行っている。

（２）生徒募集を支えている「確かな進路実績」

これまでも本校は「確かな進路指導」から、十分な進路実績を出している。その成果を出すために、これまでのデータや卒業生の取り組みを整理した「進路資料」という冊子を発行して活用している。データ等に基づいた進路指導を行う点を評価する。

2022 年 4 月から、高校でも新しい学習指導要領がスタートする。現在、進路指導計画や教科指導の在り方をアップデートしている。

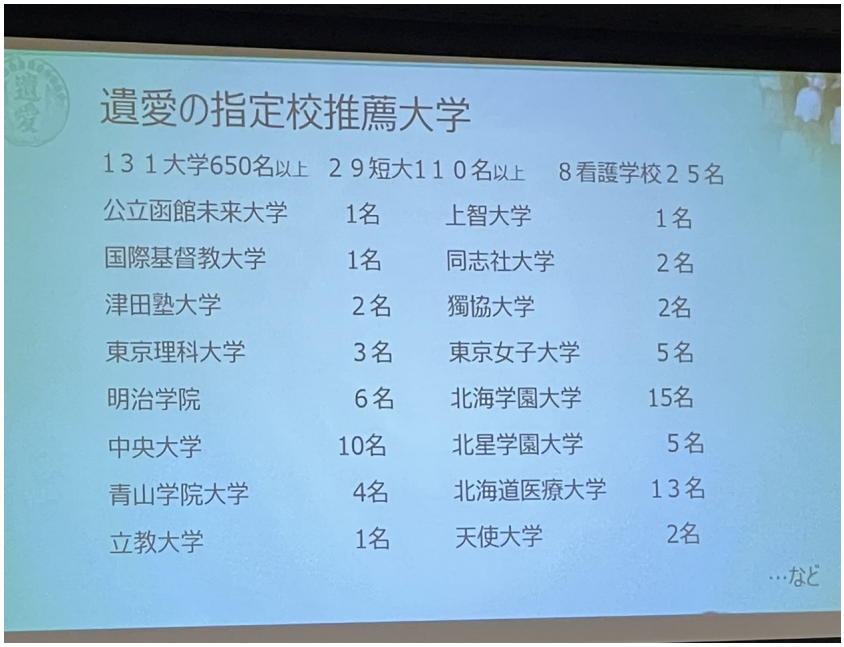
〔2021 年 3 月結果〕

卒業生　189 名

合格実績および進路：国公立大学 30 名　私立大学 168 名　短期大学 26 名

看護大学 35 名　専修学校 48 名　就職 9 名

（３）遺愛女子の指定校推薦大学



これまでの取り組みが評価されて、上記のように「多くの指定校推薦の枠」を獲得できている。中学生への説明会では、進路を決めることができた高校 3 年生が「充実できた学校生活」を紹介されており、確かな進路を実現できる学校という PR ができている。

（４）学校生活全般を見直すアンケート

学校として、「授業アンケート」「高校３年卒業間際アンケート」「教職員自己評価アンケート」「学校満足度調査」などのアンケートを実施している。

生徒や保護者や教職員のアンケートを行い、教育活動を振り返っている。この点は、計画・実行・点検・振り返りのサイクルが、いろいろな場面で機能している。

２．教育活動の成果について

進路・合格実績からの学校評価として

①　これまでの調査・アンケートから

アンケートを見ると、「国公立大学」「難関私大」への進路を希望する保護者に対する期待に応えていることが分かる。「子どもの個人面談をはじめ学校サポート」も評価が高い。これは、大手予備校の映像講座を採用するなど、上位大学への進学を希望する生徒への教育サポートにも着手しているが成果だろう。

また、年度ごとに作成している「進路資料」は、質の高い進路情報が掲載されている。この冊子には統計資料、合格体験記、指定校推薦大学、進学講習時間割、学習の手引きが掲載されている。この資料の活用が本校の高い合格実績を出せることの要因のひとつであろう。

②　合格実績　2017～2021 年　MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政大学

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
国公立大学	26	43	31	27	31
（北海道大学）	2	4	2	3	7
（旭川医科大学）	1	0	0	0	0
（札幌医科大学）	2	5	2	1	3
早稲田・慶應・理科大	2	9	7	4	7
上智大・ICU	3	7	1	3	3
ＭＡＲＣＨ	20	31	19	15	33

（内訳）

□　国公立大学　30 名　以下　主な実績

札幌医科大学　１名　北海道大学　７名

東北大学　１名　東京学芸大学　１名　　北海道教育大学　６名

□　MARCH

明治大学　７名　青山学院　１名　立教大学１名　中央大学 23 名　法政大学１名

３．生徒募集について

（１）新しい生徒募集の在り方を模索、教職員の負担は変わらない

新型コロナ禍の影響を受けて、生徒募集の方法を変えなければならない。予定の変更はもちろんのこと、オンライン（動画・YouTube）の説明会の開催、SNS の活用などの取り組みを始める学校が増えている。

（10 月入試ガイダンス）

2020 年の学校評価レポートでは、「今年度の生徒募集は、新型コロナ禍の中での開催ではあるが、来校者は増えている。イベントでは、密を避けるための会場変更などを行い、対応をしている。先にも紹介したが、今後はホームページ活用しての生徒募集が必要となり、生徒募集の在り方を考えるタイミングである」と指摘した。

現在、学校として学校ホームページのリニュアルを計画・準備をしている。入学前の生徒や保護者に、ホームページなどを活用して「学校のめざす教育」や教育実践などを紹介する活動は必要なことである。（「アドミッション・ポリシー」）

校舎見学を行うと、以下のような告知パネルがある。

現在、本校は修理工事をしているが、環境として「マイナス」であろうが、このような工夫された紹介により、生徒 PR として、ユニークな印象を与えることができ、「プラス」に転じると思われる。過去と現在、そして未来の学び舎をイメージできる点を評価する。

４．地域から支持されるための取り組み（新しい取り組みとして）

過去の学校評価レポートでも英語科の取り組みを取り上げた。英語科の教育プログラミは、本校の特色となっている。教育プログラム「客船ボランティア」「修学旅行」などの学校行事は、新型コロナの影響により、大きく変えることが必要となった。

そのため、英語科の募集活動に影響があり、生徒数が減少すると予想していた。だが、これまでのメディア（例えば新聞社）との関係により、現在行っている「ボランティア活動」の取り組みなどが取り上げられている。

このことは、英語科の活動は、新聞報道や学校ホームページで PR することができ、英語科の認知度を高めることにより、生徒数を獲得できたと推測される。

今後、教育の成果を出すことはもちろんのこと、地域社会に教育活動を PR することまでの視点をもつことこそ、地方の私学の「生き残り」の施策となり、本校はそのことを実践できている私学である。

（文責：コアネット教育総合研究所　川畑浩之）